

## 第1回 環境法の歴史

2015年4月10日

担当者：交告尚史

### I. 環境法、環境、公害

1. 環境法とは 「外部費用」という概念
2. 環境とは 環境基本法は「環境」自体を定義していない  
⇒1条、2条、3条および14条の規定の仕方を頭に入れること
3. 「環境への負荷」と公害  
環境への負荷→環境の保全上の支障：環境基本法2条1項+教科書4頁【図表1-1】  
公害：環境基本法2条2項 とくに④の要素（教科書3～4頁の記述）に注意！

### II. 公害・環境法の進展と対象範囲の拡大

#### 1. 第1期：公害法の生成（1960年代半ばまで）

##### (1)公害防止条例

戦後復興、工場再建、大気汚染、水質汚濁、騒音等の進行、朝鮮動乱特需。

東京都工場公害防止条例(1949)、大阪府事業所公害防止条例(1950)、神奈川県事業場公害防止条例(1951)

##### (2)浦安漁民騒動

本州製紙江戸川工場の汚水。魚介類の死滅。漁民の抗議行動。工場構内への闖入、座り込み。公害防止条例に基づく都知事の操業一部停止勧告。

##### (3)水質二法の制定(1958)

「公共用水域の保全に関する法律」と「工場排水等の規制に関する法律」

水質二法の3つの限界＝「産業の相互協和」条項、水域指定、濃度規制

##### (4)大気汚染公害とばい煙規制法の制定

石油コンビナート。四日市喘息。異臭魚問題。

ばい煙の排出の規制等に関する法律(1962)

ばい煙規制法の3つの限界

#### 2. 第2期：公害法及び自然保護法の確立（1960年代半ば～70年代半ば）

—公害対策基本法の制定と1970年公害国会

##### (1)公害対策基本法制定の経緯

四大公害（熊本水俣病、新潟水俣病、富山イタイイタイ病、四日市喘息）

公害行政の総合的実施の必要性 → 公害対策基本法(1967)

##### (2)公害対策基本法のおもな内容

典型六公害＝大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、地盤沈下、悪臭

環境基準、排出基準、土地利用規制、公害防止計画。

(3)「公害国会」前

ばい煙規制法に代えて大気汚染防止法の制定(1968)

将来ばい煙発生施設の集合設置が確実な地域を指定地域に含める。

K 値規制、特別排出基準、自動車排ガス規制に着手。

騒音規制法の制定(1968)

(4)「公害国会」(1970)

公害対策基本法の経済調和条項を削除。大気汚染防止法、騒音規制法の調和条項も削除。

土壤汚染を公害に加える。☞「典型七公害」

自然環境の保護を政府のなすべき施策に含める。

大気汚染防止法改正。水質二法に代えて水質汚濁防止法を制定。

☞指定地域・指定水域制の廃止、上乘せ規制、直罰主義。

海洋汚染防止法、土壤汚染防止法、公害防止事業費事業者負担法、廃棄物処理法の制定。

公害罪法の制定・・・両罰規定、因果関係の推定規定。

(5)「公害国会」後の数年間

環境庁（現在は環境省）の創設(1971) ☞組織の位置づけと欠陥、自然保護も任務。

\* 国連人間環境会議(1972) ☞国連人間環境宣言（ストックホルム宣言）

自然環境保全法の制定(1972) ☞公害対策基本法と自然環境保全法の「二本柱」  
理念＝世代を越えた継承

←公害国会における自然公園法改正。しかし、保護と利用の二重目的。

総量規制の導入 大気汚染(1974)、水質汚濁(1978)

(6)公害訴訟

四大公害訴訟 ☞民法、民事訴訟法の理論の進展

公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法

公害健康被害補償法(1973)

3. 第3期：環境立法・行政の停滞（1970年代半ば～1990年頃）

—都市型・生活型公害の発生

(1)都市型・生活型公害とは

生活排水や自動車排ガスなど不特定多数の汚染源から発生。被害者たる生活者自身が加害者でもある。

(2)環境立法・行政の後退

二酸化窒素に係る環境基準の緩和(1978)

環境影響評価法案の廃案(1983)

公害健康被害補償法および同法施行令の改正(1987,1988)による第一種地域の全面的解除、新たな患者認定は行わない（1988年以降）。

4. 第4期：環境法の新展開（1990年頃～）—環境基本法の制定と個別環境法の増大
- 地球環境問題の発生、リスクとしての環境負荷活動の拡大、物質循環の管理（廃棄物管理、及びリユース・リデュース・リサイクルの3R）の問題の重要化と生物多様性の観点の導入
- (1)地球環境問題への対応
- 環境と発展（「開発」という訳もあり）に関する国連会議(1992)   👉リオ宣言
- アジェンダ 21、生物多様性条約、気候変動枠組条約、「持続可能な発展」
- (2)環境基本法の制定(1993)
- 行政対象の拡大と行政分野の総合化、行政手法の拡大、行政範囲の国際化
- 基本理念「環境負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築」（3～5条）
- 法定計画としての環境基本計画（15条）
- 国の施策の策定・実施にあたっての環境配慮義務（19条）
- 経済的措置の導入の可能性（22条）
- 地球環境保全等に関する国際協力のための規定（5条、32条、34条、35条）
- (3)個別法の制定と改正
- ①大気環境
- 大気汚染防止法の度重なる改正（有害大気汚染物質対策 1996、VOC 規制 2004 など、最近では 2010 年）
- 自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（1992）→自動車 NOx・PM 法（2001 改正、2007 改正）
- ②地球温暖化
- 地球温暖化対策推進法(1998 制定、2006 改正)ほか
- ③水環境
- 水質汚濁防止法の度重なる改正（地下水水質浄化のため 1996 など、最近では 2010 年）
- 水循環基本法の制定(2014)
- ④土壌汚染
- 土壌汚染に関する環境基準の制定(1991)
- 土壌汚染対策法（2002 制定、2009 改正）
- ⑤化学物質
- PRTR 法の制定(1999)、化審法の改正(2003,2009)
- ⑥循環管理
- 廃棄物処理法の度重なる改正（まずは 1991 の大改正、最近では 2010）
- リサイクル法
- 再生資源の利用の促進に関する法律(1991)→資源の有効な利用の促進に関する法律(2000)
- 容器包装リサイクル法(1995)

家電リサイクル法(1998)

循環型社会形成推進基本法、建設工事リサイクル法、グリーン購入法(2000)

自動車リサイクル法(2002)

小型家電リサイクル法(2012)

⑦自然保護

種の保存法(1992)

遺伝子組換えに関するカルタヘナ法(2003)

特定外来生物法(2004)

生物多様性基本法(2008)

自然環境保全法および自然公園法の改正(2009)

⑧アメニティ

景観法(2004)

⑨環境問題全般

環境影響評価法（1997 制定、2011 改正）

⑩被害者救済

石綿健康被害救済法(2006)

水俣病救済特別措置法(2009)

(4)環境法の対象範囲の拡大

生物多様性、循環管理、リスク

(5)非環境保護法に環境保護目的追加 一世紀転換期の動き

河川法、海岸法、港湾法など

#### 予習・復習の手引き

何よりも教科書の第1章をよく読むこと。環境法事件では、背景的事実を歴史の中に位置づけて理解することがとくに大切です。皆さんが当然のことのように使っている法理のなかには、昔の著名な公害事件の解決に際して、何もないところから創造されたものはいくつもあるのです。とりあえず、教科書9頁の事例1に取り組んでみて下さい。素材は熊本水俣病事件判決（環境法判例百選 20）ですが、実際に判例集を繙いてみることをお奨めします。膨大な量ですから、ほんの一部を眺める程度で終わるかもしれませんが、少なくとも記憶の定着度を高めるという効用があります。余力のある人は、続けて水俣病関西訴訟上告審判決・最判平成16年10月15日民集58巻7号1802頁＝判時1876号3頁（環境法判例百選29）を読み、事実関係の流れを追えるかどうか試してみてください。

要するに、歴史を踏まえた理解の重要性を強調したいのですが、それは現在の環境問題に大いに関心を払えということでもあります。法思考の大転換を迫るような環境事件が今日発生しているかもしれないのです。あなたにも新しい法理の創造者となる心構えがなければなりません。

環境法学習の意欲がもうひとつ湧いてこないという人は、足尾鉍毒事件、水俣病事件および豊島産廃事件のいずれかに関する書物を1冊でよいから読んでご覧になるとよいと思います。たとえば、水俣病事件でしたら、原田正純『水俣病』（岩波新書）という本があります。詳細は相談に乗ります。

2015年4月17日

担当者：交告尚史

## I. 大気汚染

### 1. 大気汚染防止法の制定(1968)

ばい煙規制法との違い

- ①自動車排ガスについて排出規制限度を設定。
- ②未然防止の観点に立った地域指定が可能に。
- ③排出基準の設定方式の合理化（硫黄酸化物に関してK値規制方式を採用）。
- ④「特別排出基準」の設定 ← 公害対策基本法に基づく環境基準

### 2. 公害国会における大気汚染防止法の改正

- ①調和条項の排除。
- ②指定地域制度の廃止
- ③条例による上乗せ規制、横出し規制を許容。
- ④直罰制度の導入。

### 3. 現行法の仕組み

#### (1)環境基準

- ①根拠 環境基本法 16 条
- ②法的性格：東京高判昭 62.12.24 環境法判例百選 10 事件
- ③環境基準と排出基準の連動関係

#### (2)ばい煙に関する規制

- ①ばい煙の定義（2条1項、施行令1条）  
硫黄酸化物、ばいじん及び有害物質（カドミウム、鉛、窒素酸化物、塩素等）  
\*環境基準が設定されているのは、二酸化硫黄と二酸化窒素のみ。
  - ②排出基準  
一般排出基準（法3条1項）、特別排出基準（法3条3項）→ 施行規則7条、  
上乗せ基準 → 都道府県条例 \*硫黄酸化物についてK値規制
  - ③総量規制  
指定ばい煙は硫黄酸化物（指定地域は24区域）と窒素酸化物（指定地域は3区域）
  - ④燃料使用規制（法15条、施行令9条+別表4）
- #### (3)粉じんに関する規制（法第2章の3）
- (a)一般粉じんの規制 → 発生施設の規制
  - (b)特定粉じんの規制

＊特定粉じん：施行令 2 条の 4 で石綿（アスベスト）のみ指定

アスベスト規制の充実

- ①特定粉じん発生施設の規制（1989 年より）
- ②オフィスビル、集合住宅等の建築物の解体作業における飛散防止対策（1996 年より）
- ③工場プラントなどアスベスト使用工作物を規制対象に追加（2006 年より）

☞石綿健康被害被害救済法の成立と同時の改正

- ④建築物の解体作業における飛散防止対策のさらなる強化（2013 年改正）Cf. p. 158.

#### (4)揮発性有機化合物(VOC)の排出抑制

2004 年法改正で追加。法規制と自主的取組みの複合。

化学物質自体の有害性ではなく、SPM や光化学オキシダントの前駆物質であるところに規制の根拠を見出している。 ☞予防原則の適用例

#### (5)有害大気汚染物質に関する規制

1996 年改正。ベンゼンやダイオキシンなど長期毒性を有する物質を有害大気汚染物質として規制。

#### (6)遵守確保の制度

ばい煙発生施設について計画変更命令付き届け出義務

改善命令の発動要件の緩和（2010 年改正で被害要件を削除）

ばい煙量測定結果の保存の義務付け、罰則あり（2010 年改正）。

#### (7)移動発生源対策（自動車排出ガスに関する規制）

Cf. 東京大気汚染訴訟第 1 審判決・東京地判平成 14 年 10 月 29 日判時 1885 号 23 頁  
自動車 NO<sub>x</sub>・PM 法の 2007（平成 19）年改正による局地汚染対策と流入車対策の導入

## II. 水質汚濁

### 1. 水循環

水の循環と制度の連関：森林法、河川法、水質汚濁防止法、水道法、工業用水道事業法  
水循環基本法の制定(2014)

### 2. 水濁法の規制の仕組み

#### (1)規制の対象となる行為

工場・事業場からの排水および生活排水

☞ともに公共用水域への排出と地下浸透が規制される。

#### (2)規制の対象となる事業場・施設

- ①特定事業場＝特定施設をもつ事業場
- ②指定施設（2010 改正）
- ③有害物質貯蔵指定施設（2011 改正）

(3)規制対象項目

健康項目・生活環境項目      ㊦ 条例による上乘せ・横出し可能

(4)環境基準

健康項目（公共用水域全般）と生活環境項目（水域別）

地下水の水質汚濁に関する環境基準(1997)

(5)排水基準

特定施設 → 特定事業場 → 排水基準

① 一律基準

健康項目に係る排水基準・・・特定事業場からの排水全般

生活環境項目に係る排水基準・・・裾きり

② 上乘せ基準、横出し基準

(6)総量規制

㊦ 濃度規制では、希釈すれば基準を達成できてしまう。

指定水域 → 瀬戸内海（瀬戸内法）、東京湾、伊勢湾

指定地域＝指定水域に流入する河川などの集水域

規制対象項目は化学的酸素要求量(COD)および窒素または磷の含有量

(7)有害物質の地下浸透の制限、有害物質等の漏洩の未然防止

1980 年代に入ってから地下水汚染問題と 1989 年法改正による対応。

水濁法の特定施設でないものも取り込む 2011 年法改正。

(8)遵守確保の仕組み

(a)特定施設の設置の届出（5 条）      \*事後変更命令付き届出制

(b)遵守の義務付け

排水基準（12 条）、総量規制基準（12 条の 3）、特定地下浸透水の浸透の制限（12 条の 3）、有害物質使用特定施設及び有害物質貯蔵指定施設に係る構造基準等(12 条の 4)

(c)設置後の規制

排水の排出の制限の場合

① 改善命令等（13 条）→ 違反に対する罰則（30 条）

㊦ 命令発出の要件に注意「おそれがあると認めるとき」

② 排水基準違反に対する直罰（31 条 1 項 1 号）

(d)その他の仕組み

常時監視（15 条）

立入検査（22 条）→ 立入検査拒否罪（33 条 4 号）

排出者、浸透者の測定・記録義務（14 条）

事故時の応急措置および届出の義務（14 条の 2）

地下水の水質浄化のための措置命令（14 条の 3）



## 2. 生活排水対策 ㊦1990 年法改正

都道府県知事による生活排水対策重点地域の指定 → 啓発、指導

## 3. そのほかの水質保全対策

瀬戸内法、湖沼法、水道水源法、水質保全事業促進法 + 条例

### 予習・復習の手引き

公害防止法制のうちから、大気汚染防止法と水質汚濁防止法を取り上げて、その仕組みを学ぶことにします。教科書は第 6 章です。時間の関係で、水質汚濁防止法の方は、十分には説明できないかもしれません。それでも教科書の記述はしっかり読んでおいて下さい。

この分野でも、たとえば大気汚染防止法の度重なる改正をその時点の社会的背景に照らして理解するという態度が大切です。現行法の理解としては、まずは環境基準と排出（排水）基準の関係をしっかり理解しましょう。事業者や国民に特定の行為（作為、不作為）をどのようにして義務付けているか、またどのようにして義務を果たさせようとしているかという視点も重要です。

それから、教科書の第 2 章は大塚先生の講義で言及されることが多いと予想されますが、実はこの章は環境法学の全体に関わっています。ですから、この章は講義の進行とは関係なく、折に触れて読み返すようにして下さい。たとえば、34 頁以下で「未然防止原則、予防原則」という環境法の一般原則が説明されていて、38 頁には大気汚染防止法の「VOC 対策」と「有害大気汚染物質対策」がゴチックで挙がっています。他方、大気汚染防止の仕組みを解説した 153 頁と 155 頁に、VOC 対策と有害大気汚染物質対策の面に現れた予防原則の考え方についての説明があります。これらの記述をあなた自身の頭で関連付けるようにして下さい。

### 第3回 環境アセスメント

2015年4月24日

担当者：交告尚史

#### 1. 環境アセスメントとは？

- (1) 2つの考え方 ①合理的な意思決定の手段 ②事業実施を前提とした影響調査  
(2) 事業アセスから計画アセスへ

#### 2. アセスの制度化の歴史

アメリカ：NEPAの成立(1969)

日本：自治体が先行。川崎市(1976)、東京都、神奈川県、横浜市ほかが条例制定。その他の自治体は要綱で実施。

国レベルでは、

1981年法案成立せず、1983年廃案。

1984年 要綱として閣議決定。「環境影響評価の実施について」⇒「閣議アセス」

1993年 環境基本法の推進規定(20条)

↳中央環境審議会 1997.2.10 答申「今後の環境影響評価制度の在り方について」

↳環境影響評価法(1997.6 公布、1999.6 施行)

2011年 法改正

#### 3. 環境影響評価法の特徴

- ①実施主体は事業者  
②環境影響評価の結果の行政への反映

#### 4. 環境影響評価法の内容

##### (1) 実施時期

基本的には事業実施段階。しかし、早期の環境配慮という観点から以下の2点が重要。

- ① 第1種事業につき、計画段階配慮書の作成を義務化(2011年改正)。  
② スコーピング

##### (2) 対象事業

###### ① 規模

第1種事業：必ずアセスを実施

第2種事業：スクリーニング＝「判定」(法2条3項および4条)

第2種事業はスクリーニングを受ける前のもののみを指す。スクリーニングを受けて本法の対象とされたものは対象事業となる。

②事業の種類・・・2条2項1号イ～ワ

③国との関係・・・2条2項2号イ～ホ

類型 → 環境影響評価の結果を反映させる方途

イ 許認可事業 → 許認可

ロ 国の補助金 → 補助金交付決定

ハ 国が出資している特殊法人 → 特殊法人の監督

ニ 国の直轄事業 → 国の自律

ホ 国の直轄事業で許認可を要する事業 → 許認可等

### (3)評価対象項目

(a)環境影響評価項目（「基本的事項」別表）

(b)スコーピング

「方法書」の作成における調査項目の絞り込み（5条1項7号）、意見の聴取

(c)不確実性の評価

事業者による予測の手法の選定に当たっての留意事項が環境影響評価項目等選定指針において定められるが、そのなかに次の事項が定められる（法14条1項7号+「基本的事項」[環境省告示]第二、五(2)キ）。

予測の不確実性の検討：科学的知見の限界に伴う予測の不確実性について、その程度及びそれに伴う環境への影響の重大性に応じて整理されるものとする。

(4)代替案 \*109頁 Q3を熟読すること

- ・当該措置を講ずるに至った検討の状況（14条1項7号ロ）

- ・環境保全措置（14条1項7号ロ本文）

環境保全措置の検討に当たっての原則

- ・複数案（14条1項7号ロ括弧内）

(5)関係地域（15条）

アセス法では、事業者が判断する。書類を送付する市町村の範囲、縦覧や説明会の場所について、この概念が決め手となる。

(6)環境影響評価の許認可への反映 → 横断条項（33条以下）\*113頁 Q6を熟読すること

(7)公衆参加 → アセス法は住民に限られない情報提供型参加 \*110頁 Q5を参照

(8)フォローアップ

- ・事業の目的、内容の変更に際しては、アセスを再実施（31条2項）。

- ・事後調査の可能性（14条1項7号ハ、「基本的事項」第三、二(6)）

- ⌘ 不確実性

- ・特別な事情によるアセスの再実施（32条）

- ⌘ 長期間の未着手

(9)条例との関係（61条） \*まず教科書127頁の図表を見よ。129頁熟読を要す！

環境影響評価法の施行について（環企評平10.1.23都道府県知事・政令市長宛環境庁企画

調整局長通知)

①法 61 条 1 号について

第 2 種事業はスクリーニング前の概念。アセスの必要なしとされた事業について、条例でアセスの手続を定めることは可能。

- a. 法律の対象種以外の事業への横出し
- b. 法律の第 2 種事業規模に満たない事業への裾出し
- c. 法律 4 条の判定の結果、対象事業とならなかった事業

②法 61 条 2 号について

対象事業について、条例によって法律の規定に反しない限りにおいて、地方公共団体における手続を規定すること（たとえば、地方公共団体の意見の形成に当たって公聴会、審査会を開催すること）は可能。

法律で定められた手続を変更し、または手続の進行を妨げるような形で事業者に義務を課すこと（たとえば、事業者に対して公聴会への出席など説明会以外の方法によって準備書を周知する義務を課すること、見解書を縦覧し住民等の意見を求める義務を課すること等）は不可。

4. 2011 年改正法は何を変えたのか

＊環境影響評価法の第 2 章が「方法書の作成前の手続」という標題になり、第 1 節「配慮書」に 3 条の枝番号で 9 か条の条文（3 条の 2 から 3 条の 10 まで）が配置され、第 2 節「第 2 種事業に係る判定」には第 4 条の 1 か条のみが置かれている。第 4 条は、旧法では、第 2 章「準備書の作成前の手続」の先頭に位置していた。したがって、今回の改正で、「方法書の作成前」という時空間が観念され、そこで実施される手続として、計画段階配慮事項の検討から配慮書の作成、および第 2 種事業に係る判定という 2 種類の手続が、この順で並べられたことになる。

- ① 補助金適正化法関係で対象事業の範囲を拡大する。
- ② 第一種事業を行おうとする者は、第一種事業に係る計画の立案の段階において、環境の保全のために配慮すべき事項についての検討を行わなければならないこととする。
- ③ 方法書段階における事業者の説明会の開催を義務化する。
- ④ 環境影響評価図書の電子縦覧を義務化する。
- ⑤ 評価項目の選定段階で環境大臣が技術的見地から意見を述べるができるようにする。
- ⑥ 政令で定める市について、市長から事業者へ直接意見を述べられるようにする。
- ⑦ 事業着手後の環境保全措置の実施状況について公表することを義務づける。

#### 予習・復習の手引き

教科書は第5章です。学習のコツは何と言っても環境影響評価法をよく読むことです。環境影響評価法は平成23年に改正されました。このことを頭に置いて、それまでの仕組みとどこが変わったのかという視点をもつようにして下さい。現行法の理解のためには、101頁のフローチャートを何度も眺めることが大切です。一度で覚えようとしてははいけません。

ところどころに外国法との違いに言及した記述が見られますが、これをおろそかにしてはなりません。とくにアメリカの国家環境政策法(NEPA)という法律のことは基礎知識として記憶に留めて下さい。

それから、とにかく教科書をよく読んで、スクリーニング、スコーピング、ミティゲーションというような語をきちんと説明できるようにしましょう。それぞれの語が環境影響評価法ではどのように表現されているか、法律も注意深く読んで下さい。教科書108頁に「複数案」、「代替案」という太文字が見えますが、ここら辺りはとても大切です。

教科書をよく読めば、大塚先生が重要な箇所では自説を展開されていることに気づくはずです。どうして先生がそのように思考されるのか、あなた自身も考えてみて下さい。

## 第4回 廃棄物処理の法制度

2015年5月1日

担当者：交告尚史

### 1. 法律の目的

廃棄物の排出抑制（1997改正）＋ 生活環境の保全 ＋ 公衆衛生の向上

### 2. 廃棄物概念（2条）

廃棄物、一般廃棄物と産業廃棄物、特別管理一般廃棄物・特別管理産業廃棄物

### 3. 廃棄物概念の客観化に向けて

(1) 通達による主観的解釈

(2) 豊島産廃事件（2000年6月6日公害委調停成立）

(3) 廃棄物概念を客観化した立法例

① 特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律（バーゼル法：平4法108）

② ドイツの循環経済廃棄物法(1994)

(4) おから産廃事件（最決平成11年3月10日判時1672号156頁）

(5) 廃タイヤの処理に関する通達

(6) 循環型社会形成推進基本法の「廃棄物等」の概念

(7) 廃棄物処理法の改正・・・立入検査等の要件

### 4. 国内処理等の原則（2条の2）

### 5. 国民および事業者の責務

(1) 国民の責務（2条の3）

(2) 事業者の責務（3条）

・ 製品、容器等が廃棄物となった場合における処理の困難性を事前に評価し、適正な処理が困難とならないような製品、容器等の開発を行う。

・ 製品、容器等に係る廃棄物の適正な処理の方法についての情報を提供する。

### 6. 市町村、都道府県、国の役割分担（4条）

□ 2003年改正：国の関与の強化

① 産業廃棄物に関し、環境大臣に報告聴取または立入検査の権限。

② 国は広域的な見地から地方公共団体の事務について調整を行う。

③ 都道府県の産業廃棄物に関する事務が円滑に実施されるよう職員派遣等の措置。

## 7. 基本方針と計画

### (1)基本方針（5 条の 2） 2000 年改正で導入

### (2)計画

## 8. 一般廃棄物の処理

### (1)市町村の責任（6 条の 2 第 1 項）

市町村は、一般廃棄物処理計画に従い、その区域内の一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないうちに収集し、これを運搬し、かつ処分（再生を含む）する。

＊自区内処理の原則と区域外処理の場合の「排出者責任」

（福井の処分場の破綻に伴う後始末の費用負担 2008.3.3 朝日新聞）

### (2)政令による基準の設定（6 条の 2 第 2 項）

一般廃棄物処理基準および委託基準

特別管理一般廃棄物処理基準と委託基準

### (3)□2003 年改正：事業者が一般廃棄物の処理を委託する場合の基準等（6 条の 2、第 6 項、第 7 項）

### (4)適正処理困難一般廃棄物（6 条の 3）

### (5)一般廃棄物処理業の許可（7 条）

・計画許可

#### □2003 年改正

①特に悪質な廃棄物処理業者について許可の取消しを義務化（7 条の 4）

②許可の取消し逃れ（自主廃業の届出）対策（7 条 5 項 4 号ホ）

### (7)一般廃棄物処理施設の許可（8 条）

## 9. 産業廃棄物の処理

### (1)責任の所在

### (2)事業者による処理のあり方

(a)自己処理の場合・・・産業廃棄物処理基準

(b)委託の場合

(c)マニフェスト制度 1991 年改正で導入 ＊教科書 248 頁以下。249~250 頁の図表を参照。

### (3)産業廃棄物処理業の許可（14 条）

・許可要件としての暴力団排除（14 条 5 項 2 号ロ）

□2003 年改正：取消しの義務化と取消し逃れ対策

### (4)産廃処理施設の許可をめぐる諸問題 背景としての NIMBY

(a)施設設置許可（15 条）の仕組み ＊1997 年法改正

○都道府県知事の許可

○生活環境影響調査（ミアセス）の結果記載書類の添付（3 項）

- 申請書等の縦覧（4 項）
- 市町村長の意見の聴取（5 項）
- 利害関係者の意見書提出（6 項）
- 許可基準（15 条の 2 第 1 項）
- 専門的知識を有する者の意見の聴取（15 条の 2 第 3 項）

(b)住民投票への動き

岐阜県御嵩町事件を嚆矢とする動き

＊全面和解が成立（2008.3.27 朝日新聞）

寿和工業が処分場許可申請を取り下げ

(c)千葉県海上町事件

厚生大臣の審査請求認容裁決により業者有利に逆転

どんでん返しの取消判決・千葉地判平成 19 年 8 月 21 日判時 2004 号 62 頁

ポイント：①住民の原告適格 ②経理的基礎と行訴法 10 条 1 項

(d)施設設置許可と効果裁量の否定

○釧路産廃事件

札幌地判平成 9 年 2 月 13 日判タ 936 号 257 頁

不許可の理由：周辺住民の同意がない。地元市と公害防止協定を締結していない。

住居専用地域で高校に隣接している。

判旨「本来は自由であるはずの財産権の行使を公共の福祉の観点から・・・」

○周辺配慮要件の射程

1997 年法改正による 15 条の 2 第 1 項 2 の追加

(e)市町村の防衛策・・・水道水源保護条例の制定

長島町事件・最判平成 16 年 12 月 24 日判時 1882 号 3 頁

## 10. 平成 22 年の法改正

### (1)排出事業者による適正処理を確保するための対策の強化

- ① 産業廃棄物につき、事業所外保管の事前届出制度を設けた。
- ② 排出事業者は、産業廃棄物の運搬又は処分を委託する場合には、当該産業廃棄物の処理の状況に関する確認を行うこととされた。これは努力義務。
- ③ 産業廃棄物管理票を交付した者は、当該管理票の写しを、交付した日から環境省令で定める期間保存しなければならないこととされた。
- ④ 産業廃棄物処理業者は、産業廃棄物の処理を適正に行うことが困難となり、又は困難となるおそれがある事由が生じたときは、当該処理を委託した者に通知するとともに、その通知を受けた者は、速やかに処理の状況を把握し、適切な措置を講じなければならないとされた。



(2)廃棄物処理施設の維持管理対策の強化

- ① 都道府県知事による定期検査を受けることを事業者に義務づけた。
- ② 施設の維持管理情報についてインターネット等による公表を義務付けた。
- ③ 許可の取消事由として、特定廃棄物最終処分場の設置者が維持管理積立金の積立てをしていない場合を追加した。
- ④ 設置許可を取り消された者にその維持管理を義務づける等の措置を講じた。
- ⑤ 特定廃棄物最終処分場の維持管理に係る生活環境保全上の支障の除去等の措置について代執行を行った市町村長又は都道府県知事は、その最終処分場に係る維持管理積立金を取り戻すことができるとされた。

(3)廃棄物処理業の優良化の推進

- ① 優良事業者について、許可更新期間の特例を設けた。
- ② 廃棄物処理法特に悪質な場合を除いて連鎖的取消しが行われないように法規定を改めた。 \*教科書 253 頁の図表を参照。

(4)排出抑制の徹底

- 産業廃棄物の大量排出事業者に対する減量等計画の作成・提出義務を担保するために過料の規定を設けた。

(5)適正な循環的利用の確保

- 業者に処理を委託する者でも廃棄物を輸入できるようにした。

(6)焼却時の熱利用の促進

- 廃棄物の焼却時に熱回収を行う者について都道府県知事が認定を行う制度を設けた。

(7)不法投棄の防止等

- ①従業員等が不法投棄を行った場合における法人に対する罰金を、1 億円以下から 3 億円以下に引き上げた。
- ②不適正に処理された廃棄物を発見した土地所有者等に通報努力義務を課した。
- ③報告徴収および立入検査の対象を土地所有者その他の関係者、車両、船舶その他の場所にまで拡大した。
- ④措置命令の対象を処理基準に違反した収集運搬、保管基準に違反した保管にまで拡大した。

#### 予習・復習の手引き

教科書は第7章のうちの275頁までです。廃棄物処理の話はリサイクルの話と切り離せません。この教科書では、循環管理法という括り方をしています。この回では廃棄物処理のみを扱い、リサイクルの法制度は大塚先生の講義に委ねることにします。しかし、それでもずいぶん内容が豊かですので、消化不良になりがちです。廃棄物概念の客観化、処理業の規制、処理施設の規制および廃棄物の投棄禁止といったところに焦点を当てたいと思います。

廃棄物処理に関しては、いろいろな形の訴訟が起きます。行政法の側からは、処理施設の設置許可処分取消訴訟がまず頭に浮かびます。周辺住民等の原告適格が問題になります。民事では、産廃処分場の建設あるいは操業の差止訴訟です。教科書465頁以下で廃棄物訴訟に関して詳しく説明されていますから、それについていけるだけの知識が身についたかどうか確かめてみて下さい。それから、環境法判例百選の廃棄物・リサイクルの章にも一応目を通しておくとよいでしょう。

なお、平成22年に廃棄物処理法の重要な改正がありました。最後にまとめておきましたが、億劫がらないで関係条文にアクセスして下さい。